



代表 和田 晃司 (わだ こうじ) 福島県須賀川市 稲作農家



## 【経歴】

2007年3月 東京電機大学 情報環境学部 卒業  
2007年4月 福島県農業共済組合 入社  
2015年3月 // 退社  
2015年4月 情報整備局 創業  
2020年1月 和田農園 承継

## 【活動】

- ・ 消防団支援アプリS.A.F.E. (セーフ) 開発・運用
- ・ 空飛ぶライスマンプロジェクト 開発
- ・ ふくすびプロジェクト 発起人
- ・ 稲作農家支援アプリ米ッ人 (コメット) 開発

## 【実績等】

### 消防団支援アプリS.A.F.E. (セーフ)

- ・ 2019年 1月 第6期ふくしま復興塾 準優勝
- ・ 2019年11月 復興庁 新しい東北復興ビジネスコンテスト 優秀賞
- ・ 2020年 3月 総務省 ICT地域活性化大賞 大賞/総務大臣賞受賞
- ・ 2020年 9月 郡山市 地域イノベーションラボこおりやま 採択
- ・ 2020年10月 仙台市 東北グロースアクセラレータープログラム 採択
- ・ 2021年10月 仙台市 仙台防災テック 実証実験サポートプログラム 採択
- ・ 2022年 8月 経済産業省 地域デジタルイノベーション促進事業 採択

他受賞等多数

### 空飛ぶライスマンプロジェクト

- ・ 2020年 7月 福島県ロボット関連産業基盤強化事業 採択
- ・ 2020年 9月 福島イノベーション・コースト構想 FTC/ビジネスアイデア事業化プログラム 採択
- ・ 2020年11月 福島県ロボット産業航空宇宙フェスタ2020 出展
- ・ 2021年 7月 福島イノベーション・コースト構想 FTC/ビジネスアイデア事業化プログラム 採択



# 活動紹介



## 楽しく儲かる稲作農業を次世代に繋げたい

### ●空飛ぶライスマンプロジェクト

2023年5月実証継続

ドローンと収量コンバイン等からデータを算出し生育調査を行う  
田植時に、生育データを元にした側条施肥を実施 衛星データとドローンデータとの比較

### ●稲作農業支援アプリ米ッ人

α版開発中

稲作農業のDX化。データドリブンで営農支援。

### ●消防団アプリS.A.F.E.(セーフ)

総務大臣賞!

ICT地域活性化大賞2020にて大賞/総務大臣賞受賞  
2022年度福島県内14市町村で本契約を結ぶ。

復興庁優秀賞!

### ●ふくすびプロジェクト

福島県のお米を宇宙へ打上げる!

県産米の消費拡大を目的として福島県内59市町村のお米を集め宇宙に打ち上げる  
現在、打上げ協力企業が2社、約35人の農家が参画



# 福島県産のお米をアピール!

福島県全59市町村のお米を宇宙へ!

## ふくすびプロジェクト

参加している水稲農家 35名/59名

募集中の水稲農家 24名

金山町	郡山市	鮫川村	国見町	相馬市
昭和村	鏡石町	矢祭町	伊達市	浪江町
三島町	矢吹町	平田村	川俣町	富岡町
柳津町	棚倉町	三春町	葛尾村	広野町
北塩原村	古殿町	小野町	新地町	

＼ 鎮火までの最短距離をめざすなら ／

消防団員が考案した  
消防団のためのICTソリューションアプリ  
→スピーディーな消火活動のサポートを

消防団専用 防災アシストアプリ

# S.A.F.E.

SYOUBOU. ASSIST. FIRE. EMERGENCY.

特許取得 火災情報システム 特許第6675723号

アプリについて詳しく→

消防団 アシスト

検索

情報整備局 代表 和田晃司



Google Play  
で手に入れよう

App Store  
からダウンロード



# プロフィール

## 和田 晃司 わだ こうじ

情報整備局 代表

1983年 福島県須賀川市出身。稲作農家。  
元消防団員(2008-2019) (11年間)

2015年 4月 情報整備局創業

2018年 消防団活動の経験から消防団専用アプリ  
「S.A.F.E」(セーフ)を開発する。

2020年 福島県内で9件の自治体で運用。

福島県経営革新計画承認、  
ふくしま復興塾6期準グランプリ、  
新しい東北復興ビジネスコンテスト2019優秀賞、  
ICT地域活性化大賞2020大賞/総務大臣賞。

他受賞等多数



# 沿革

## ■ S.A.F.E.開発の経過

- 2015年 Wiz国際情報工科自動車大学校と共同開発の構想を開始
- 2016年 同校と弊社の共同開発でプロトタイプを開発
- 2017年 弊社単独で改良を重ね、andoroid版とiOS版を開発 福島県経営
- 2018年 革新計画の承認を受ける
- 2019年 ふくしま復興塾(第6期)にて準グランプリ受賞  
「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 優秀賞受賞
- 2020年 ICT地域活性化大賞 大賞/総務大臣賞受賞  
特許取得 火災情報システム 特許第6675723号

2022年 **田村市、古殿町、小野町**にてSAFEを活用した防災訓練を実施。

## ■ 県内導入実績 (14自治体) (全国2自治体) ※青太文字 イノベ地域

- 2018年 福島県 須賀川市
- 2019年 福島県 古殿町
- 2020年 福島県 **富岡町**、磐梯町、西郷村
- 2021年 福島県 郡山市、会津美里町、南会津町、小野町、中島村
- 2022年 福島県 **田村市**、西会津町、**大熊町**、**川内村**



## 消防団は地域防災の要！

### ① 全国約1,700の自治体に設置

その地域に居住または、勤務している人員で構成される消防機関である。

### ② 全国で約85万人(消防署員の約5倍)

即時対応力が強み。

江戸時代に消防団の前身が発足。

### ③ 地震、火災、水害、捜索、啓発等の活動を行う。

地域にとって欠かせない組織。



## 国から体制の維持・強化が求められている

平成25年12月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」(平成25年法律第110号)が成立。

今後ますます消防団の重要性が高まる社会的背景がある。

# 地域社会に根ざした人材が多い消防団 現代の消防団の抱える社会的背景とは

## 消防団員数の減少

53年間で約63%に減少  
昭和40年130万人  
平成30年84万人

## 被雇用者の増加 日中地元にて在籍して いる団員の減少

被雇用者率は  
26.5%から73.6%に

さまざまな不安を抱える消防団

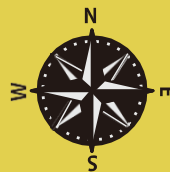
低下傾向にある組織力。火災発生時において  
仕組みを効率化する必要があるのでは？



## 「地域防災の要 消防団」その活動経験から感じた 迅速な活動のために必要な情報とは



団員全員に  
向けた素早い  
火災の通知



火災現場と  
利用できる水利  
位置情報



リアルタイムな  
出動状況

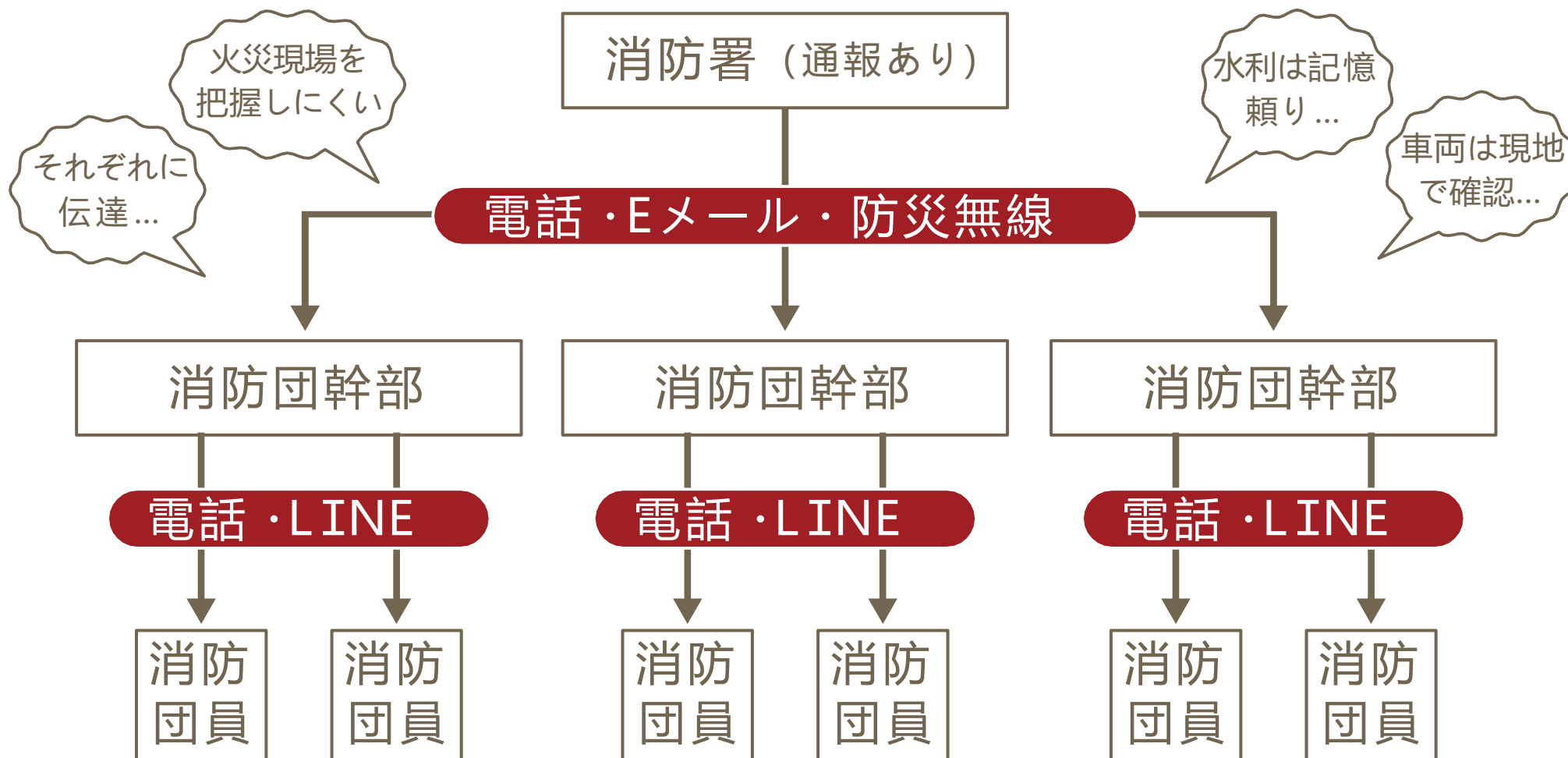
どれかひとつでも欠けると、活動の遅れにつながる

緊急時に全ての情報が

ひとつのアプリで把握できることが大事

# 慌てやすい火災発生時の複雑な連絡手段

## 連絡体制の一例



# 全団員一斉通知により迅速な連携をサポート

S.A.F.E. 導入後

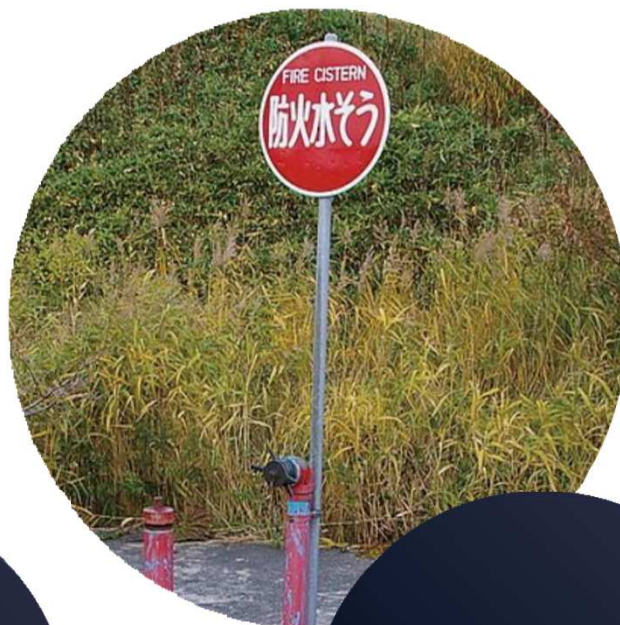


消火活動の際に水をどこから得るか

水利・消防車両の位置を知ることが重要！



消火栓



防火水槽

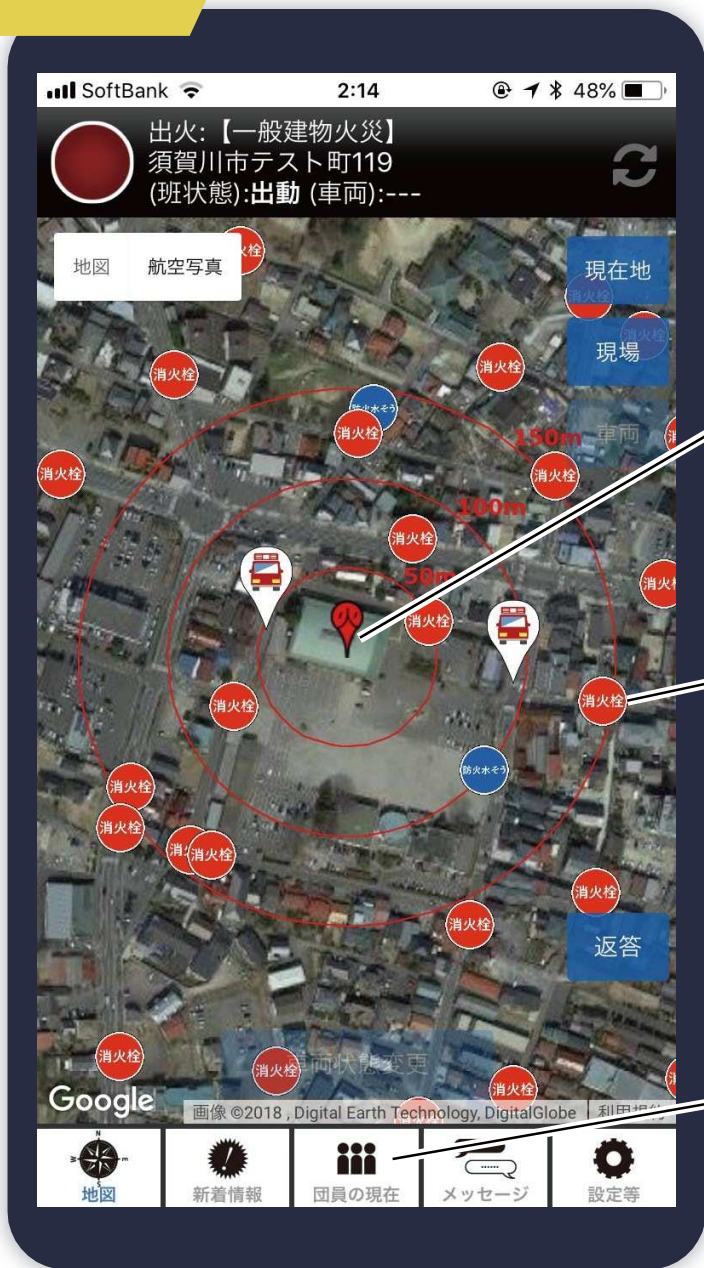


消防車両



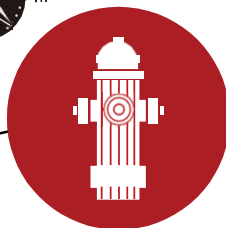
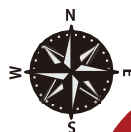
解決!

## S.A.F.E.の主な機能をご紹介します



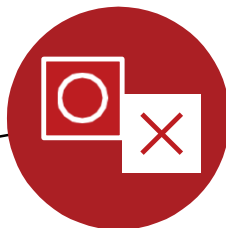
### 通知で火災を把握できる!

消防本部や事務局が出した情報を直接全団員へ通知。火点をマップに表示するので、発生場所もすぐに把握。



### 水利を一目で把握できる!

水利台帳を開かなくても、画面上で水利がどこにあるか一目で確認。平時には点検記録をつけることもできます。



### 団員・車両が把握できる!

ボタンを選ぶだけで返答が簡単に! 他の団員の運転の可否や到着予定時間、車両の現在位置が把握できます。

これらの機能により、  
どこにいても、瞬時に  
最適な行動が取れます！

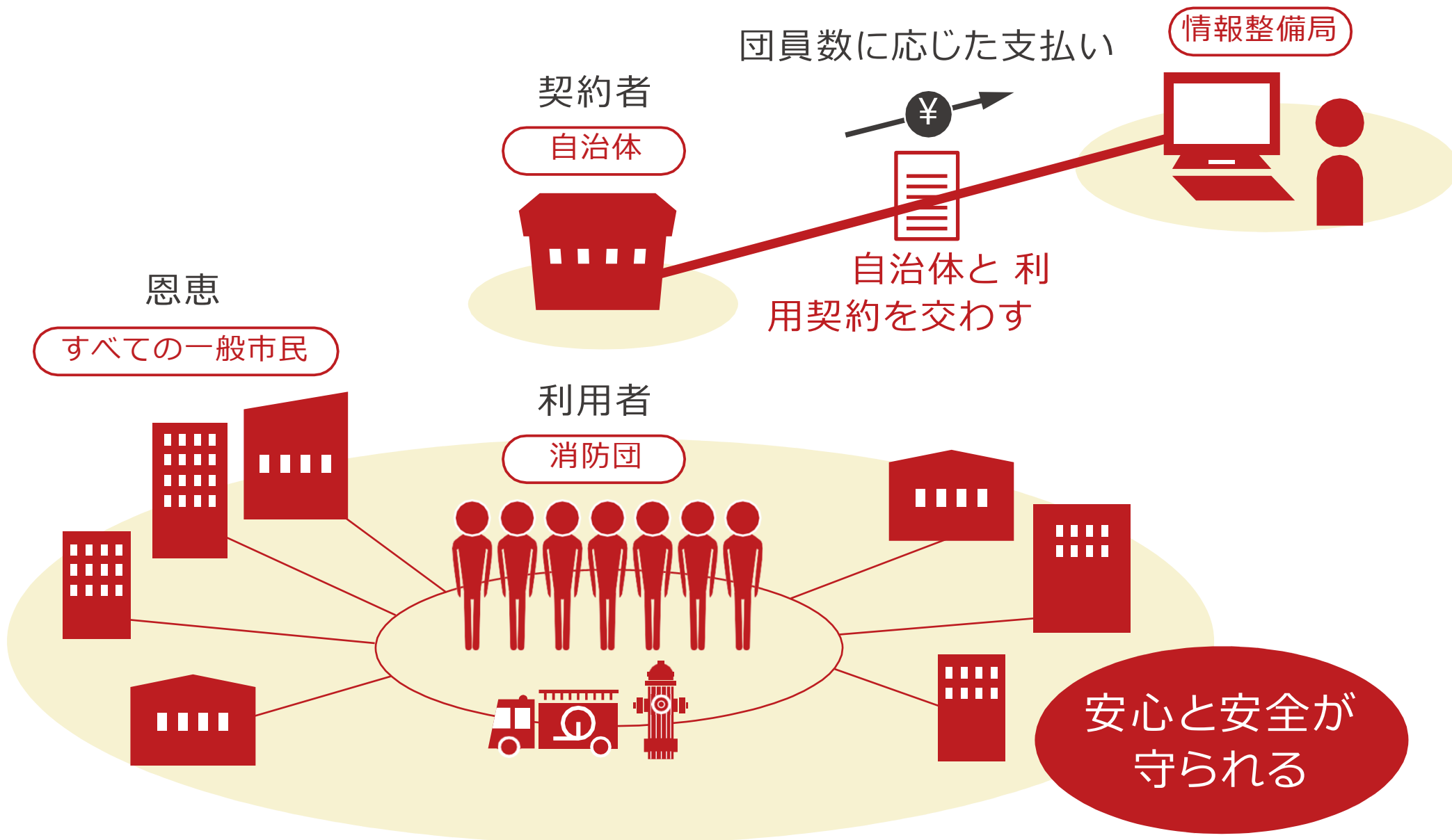
消防本部などからの火災連絡を  
S.A.F.E.アプリが受け、  
各団員のスマホへ火災情報などを  
一斉送信いたします。

消防団は  
地域の  
防災資産

その価値を、その行動力を、  
S.A.F.E.で最大化できる



# ビジネスモデル



# 今後の展開

消防団は地域の防災資産 その価値をS.A.F.E.で最大化するために

## 改良を加えながら全国の自治体へ推進



地域防災力の  
向上に貢献



ICTを活用した  
防災に積極的な  
魅力ある街づくりに  
貢献